

令和5年1月13日

○長谷川地域課長

定刻になりましたので、ただいまより「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議東部地域会議」を開催いたします。本日はお忙しい中、当会に御出席いただきましてありがとうございます。私は、本日司会を務めさせていただきます東部地域局の長谷川と申します。よろしくお願ひいたします。

開会に先立ちまして、板垣東部地域局長より御挨拶を申し上げます。板垣局長、よろしくお願ひいたします。

○板垣東部地域局長

静岡県東部地域局長の板垣でございます。

皆さん本日はお忙しいところ、足をお運びいただきまして、またWebにより参加をいただきまして、本当にありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症につきまして、世界的な拡大から3年が経過しようとしています。今も日本国内で感染の拡大傾向も見られるなど、コロナ禍におきます地域経済や社会活動に大変大きな影響を及ぼしている状況であると認識しております。

この間にも、感染対策などとあいまって、私達の生活様式もずいぶん変化したというふうに思っています。その一つに、デジタルやオンラインの活用による在宅勤務でありますとか、ウェブ会議、リモートワークなど、時間や場所にとらわれない働き方の浸透が挙げられるかと思っています。このことにもよりまして、地方移住への関心が高まるとともに、東京一極集中の人の流れにも変化が見られるのではないかと感じております。

こうした変化を踏まえまして、国におきましては、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂しまして、デジタルの力を活用して地方創生を加速化、深化させるため、令和5年度を初年度とする「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定いたしました。昨年12月に閣議決定がされております。

デジタルの力を利用した地方の社会課題解決に向け、「地方に仕事を作る」、「人の流れをつくる」、「結婚・出産・子育ての希望を叶える」、「魅力的な地域をつくる」の4つを施策の方向としているところでございます。

本県といたしましても、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」におきまして、足許の人口減少を踏まえた対応として、「若者・女性の県内の就業の拡大」、「若者・子育て世代の移住の拡大」、「子育てと両立できる働き方の導入」の3つを重点課題といたしまして、これらに対応する取り組みとともに、五つの戦略による取組方針によって施策を推進しているところでございます。

この度、第2期「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」のPDCAサイクルによる継続的な施策の改善を図るため、進捗状況の評価を行ったところでございます。引き続き戦略に盛り込んだ様々な取組を、地域の皆様と連携し、協力しながら推進してまいりたいと考えています。

また、本日は、今年度新たに構成員に就任していただいた5団体の皆様から、「子育て・福祉・産業・教育分野の現場から見た地方創生」をテーマとしまして、取組紹介をいただきます。また、この発表がありましたら、皆様から各分野の実情に応じた地方創生施策について、様々な御意見をお聞かせいただく時間を設けておりますので、積極的な御発言をいただき、今後の取組に役立てていきたいと思ひます。

限られた時間ではございますけれども、皆様の忌憚のない御発言をお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

#### ○長谷川地域課長

本会議の根拠及び構成員につきましては、お配りしております「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議東部地域会議の設置及び運営に関する要綱」のとおりでございます。また、本日の出席者の御紹介ですけれども、時間の都合により、配付いたしました出席者名簿により、変えさせていただきます。御了承願います。

それでは、これより議事に入らせていただきます。議事進行役は、要綱に基づきまして、議長である板垣東部地域局長にお願いいたします。なお、本日御発言いただいた内容につきましては、会議録としまして、県ホームページなどで公開させていただきますので、あらかじめ御承知願います。それではお願いいたします。

#### ○板垣東部地域局長

それでは、ただいま紹介いただきましたように私、東部地域局長の板垣が議事進行いたしますので、円滑な議事進行に努めたいと思っておりますが、皆様の御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

それではこれからは、次第に従いまして議事を進行させていただきます。初めに次第3議事(1)「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略令和4年度評価概要」につきまして、県地域振興課の山岸課長から御説明をお願いいたします。

#### ○山岸地域振興課長

皆さんこんにちは、静岡県地域振興課長の山岸と申します。よろしくお願いいたします。

御覧になっていただく資料は、主には資料1と記載がございます資料になります。県では令和2年3月に第2期「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定をいたしまして、人口減少の克服、地方創生の実現に向けた取組を進めております。本日は、令和2年度から令和6年度までの5ヶ年の本戦略の令和4年度の進捗状況をお願いするものでございます。

資料1を中心に御説明をいたします。なお、資料2から資料4の評価書案の概要資料、それから資料5、厚い資料でございますけれども、評価書の本体全文。資料6は、地方創生関係交付金の事業実施状況を取りまとめたものでございます。御参照いただければと思います。資料の右下、スライドの右下に番号を振っております。ページを読ませていただきますので、それぞれ御確認をお願い致します。

それでは、1ページの最初に、本県の人口減少の状況でございます。上段の本県の人口推移と将来推計人口にありますとおり、2020年の国勢調査による本県人口は363万3,000人、国立社会保障・人口問題研究所の推計では360万6,000人でありましたから、推計をわずかに上回っているという状況でございます。下段は本県の人口動態の経年変化でございます。2021年は2万1,020人の自然減、6,940人の社会減によりまして、2万7,960人の人口減、より人口減少が拡大している状況でございます。

2ページを御覧ください。「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要でございます。本総合戦略は、5つの戦略ごとに目指すべき方向性を掲げまして、65の政策パッケージにより構成をされております。

3ページを御覧ください。総合戦略評価がございまして、この総合戦略にはPDCAサイクルを徹底することとしておりまして、右側にありますとおり、自己評価に加えまして、本日の地域会議、県民会議等の外部評価を実施し、次年度の取り組みに反映することとしております。

4 ページをご覧ください。評価方針でございます。重要業績評価指標、KPIにつきまして、表に示す判断基準により、進捗状況の評価を行うとともに、課題解決に向けた今後の取組方針を明示いたしました。併せて、最新の実績値の判明に伴う重要業績評価指標の見直しを行ったところでございます。

5 ページを御覧ください。スケジュールでございます。県内、伊豆半島地域、東部地域、中部地域、西部地域の4つの地域会議と県民会議で御意見を賜りまして、パブリックコメント、県議会の審査を経まして、3月に評価結果を公表してまいります。

6 ページを御覧ください。重要業績評価指標、KPIの評価でございます。成果を測る指標では、実績値が明らかとなった119の指標のうち52.9%がB評価以上となっております。進捗を測る評価では実績値が明らかとなった242指標のうち62%が○の評価となっております。コロナ禍が現状値に影響を与えた指標を除きますと、成果を測る事業は61.5%。進捗を測る指標では73%がおおむね計画通り進捗をしております。

7 ページを御覧ください。今後の取組方針の明示でございます。足許の人口減少を踏まえた要因の分析といたしましては、まず、上段の年齢階層別の社会増減では、9歳以下、それから30歳、40歳代が社会増に改善した一方で、10歳、20歳代で毎年6,000人程度の社会減が継続をしております。下段左の合計特殊出生率については、全国同様、低下傾向にありまして、右の表のとおり有配偶女性1,000人あたりの出生数の2015年と2020年の比較では、第2子出生数の減少幅が全国と比べて大きくなっている状況でございます。

8 ページを御覧ください。足許の人口減少を踏まえた要因の分析に基づきまして、三つの重点課題を検討いたしました。一つ目は、若者約6,000人の転出状況が続き、特に女性の比率が高いことや、若い世代は本県にやってみたい仕事や給与水準の高い仕事がないと感じていること等の現状に対しまして、若者女性の雇用の受け皿作り、また県外離転職者等や県内新規大卒者等の県内就業の促進により、若者女性の県内への就業の拡大を図る必要がございます。二つ目はテレワーク移住者の急増や住環境を変えたい、子育て環境を考える移住者が多いこと、20歳、30歳代での移住者は副業に関心が高いことなどの現状に対して、多様化する暮らしのニーズへの対応や移住に繋がる事前の関係性作りを進めることで、若者子育て世代の移住の拡大を図る必要がございます。三つ目は、合計特殊出生率低下は第2子出生率低下が要因でありますことから、子育てにお金がかかりすぎると考える人が多いことなどの現状に対して、出産育児期等の就業継続をはじめ、離職者の復職等を促進することにより、子育てと両立できる働き方の導入を図る必要がございます。

9 ページを御覧ください。足許の人口減少を踏まえた対応でございます。重点課題1のうち、若者女性の県内の就業の拡大につきましては、若者女性の雇用の受け皿作りといたしまして、若者や女性の雇用比率が高いサービス業の誘致に新たに取り組む等により、雇用の創出を図ってまいります。県外離転職者等の県内就業促進といたしましては、離転職者の就職支援や移住支援を併せて推進するほか、離転職希望者向けの民間求人サイトとの連携の強化を図ってまいります。県内新規大卒者等の県内就業の促進といたしましては、大学1、2年生を対象に、時期を前倒ししたインターンシップの展開や、県内高校生の地元企業と連携した特色あるキャリア教育を推進してまいります。

10 ページを御覧ください。重点課題2若者子育て世代の移住の拡大につきましては、多様化する暮らしのニーズへの対応といたしまして、首都圏のテレワーカー向けの情報発信を強化するほか、仕事のある住まいの形成や広い家の住み替え等を促進してまいります。移住に繋がる事前の関係性作りといたしましては、県内学生をターゲットにフィールドワークの実施を通じた関係作り新たにに取り組むほか、体験型観光等の付加価値の高い旅行商品造成の取組を強化してまいります。

11ページを御覧ください。重点課題3子育てと両立できる働き方の導入につきましては、出産育児期の就業継続の促進といたしまして、男性経営者の意識改革のためのアンコンシャスバイアス、これは無意識な偏見という意味でございますけれども、アンコンシャスバイアスの気づきをテーマにしたセミナーを実施するほか、また保育士や放課後児童クラブ支援員の人材確保を図ってまいります。離職者の復職等の支援といたしましては、しずおかジョブステーションにおいて、子育てしながら働きたい方に対するセミナーや個別相談等による復職支援等を行ってまいります。

12ページを御覧ください。次に戦略ごとの今後の取り組み方針の明示でございます。戦略1では、感染症対策の司令塔機能を発揮する、仮称でございますけれども、「ふじのくに感染症管理センター」の設置や総合的な風水害、土砂災害対策の流域全体での推進、新たな地震津波対策アクションプログラムの策定、盛土に対する指導監督体制強化や危険性のある盛土の是正、現状の組織文化の改善に取り組んでまいります。

13ページを御覧ください。戦略2では、中小企業の経営革新や事業継続、資金調達の支援や、自動車産業の新たな研究開発、製品開発等の重点支援のほか、農業のスマート化、木材の安定供給のための生産拠点作り、漁業高等学園を核とした漁業就業者の確保育成を推進をしてまいります。

14ページを御覧ください。戦略3では、東アジア域内の文化の相互理解と連帯感の促進を目指す東アジア文化都市として、本県が日本の文化芸術を世界に発信する名誉ある地域に選定されましたことを受けまして、2023年の1月から、日中韓の4都市との都市間交流やスポーツ文化や食文化、ファッション、本県独自の文化技術イベントなど、年間を通じ、切れ目なく実施をしてまいります。また、浜名湖花博20周年記念事業を実施するなど、世界クラスの資源を生かしたふじのくに静岡の魅力を国内外に発信をしてまいります。

15ページを御覧ください。そのほか、ガストロノミーツーリズム、その都市で育まれた食を楽しみながら、食文化に触れるというツーリズムでございます。このガストロノミーツーリズムの推進、世界的なスポーツイベントのレガシーを活用した交流拡大等に取り組んでまいります。

16ページを御覧ください。戦略4でございます。市町と連携した地域での結婚支援の充実や子育て世代包括支援センターの相談支援体制の強化を図るほか、保育施設等送迎バスの安全対策等の徹底等に取り組んでまいります。

17ページを御覧ください。戦略5では新しい生活様式に対応した地域活動の活性化や、言葉上の壁のない多文化共生社会の実現、利便性の高い生活交通の維持確保、農山村が持つ地域資源の保全活動の促進等を図ってまいります。

18ページを御覧ください。先ほど局長からもお話がございましたとおり、国が昨年12月に閣議決定をいたしました「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の概要でございます。社会情勢の大きな変化に対しまして、デジタルの力を活用した地方創生の加速化、深化による全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指すこととしております。また、これまでの地方創生の取り組みにつきましても、蓄積された成果や知見に基づきまして、改善を加えながら推進していくこととしております。まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂した2023年度から27年度までの5ヶ年の新たな計画であります地方版の総合戦略も改定に努めることとされております。

最後に東部地域の取組状況でございます。ページ飛んで21ページでございます。地域の取組の状況でございます。東部地域の目指す姿は、日本の国土のシンボル富士山を世界との交流舞台とした健康交流都市圏を掲げておりまして、今後の取組方針といたしましては、ふじのくにCNF、セルロースナノファイバー研究開発センターを拠点とした研究開発の支援や、静岡大学との連携による人材育成等を行い、様々な分野での製品開

発を促進します。また、富士山をはじめとする世界クラスの地域資源を活用した観光プロモーションや営業活動を強化するとともに、2年連続で本県ゆかりの大河ドラマが先週から始まりましたけれども、このようなものが放映されるこの機会を捉えまして、地域の歴史文化資源に対する住民の理解を深め、磨き上げ、誘客や広域周遊を促進する事業に取り組みます。さらに、地方移住への関心が高まっているこの機会を捉えまして、東京圏におけるテレワーカーをはじめとする移住関心層や検討層に向け、本県で暮らす魅力等の情報発信を強化してまいります。

私からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

#### ○板垣東部地域局長

ありがとうございました。それではここからは、総合戦略令和4年度の評価に関しての意見交換に入らせていただきたいと思います。総合戦略令和4年度の評価に関しましては、今日お手元に配付した資料の中で、事前意見を御紹介しております9名の方から事前に御意見御提案をいただいておりますので、そちらの方を御覧いただければと思います。

本来であれば、御出席の皆様全員に御発言をお願いしたいところではございますけれども、限られた時間ということでございますので、御提出していただいた意見に加えて、これだけは話しておきたいとか、意見提出後から本日までに新たにお気づきになった点と追加でお話したいことがございましたら、挙手の上、御発言をお願いできればと思っています。なお、御発言の際は、所属とお名前をおっしゃっていただくようお願いしたいと思います。どなたかいらっしゃいますでしょうか。

それでは、富士山観光交流ビューロー専務理事の土屋様から、事前意見として観光プロモーションの話を触れていただいておりますけれども、何かございますか。

#### ○（一社）富士山観光交流ビューロー 専務理事 土屋氏

一般社団法人富士山観光交流ビューロー専務理事の土屋でございます。

私たちの取組として、一昨年から富士山周辺の4市1町の観光団体で新たな組織を作り、富士山を一体的に売り出していく取組をしています。端的な言い方をすると、富士市の富士山であるといった行政体を意識しない一体的な取組を進めています。やはり、この地域は富士山あつての地域ということが非常に多い地域です。そのため、こういった取り組みを地域一体となった形に変更させて、力強く観光振興を進めていきたいという想いで、取組事例を紹介させていただきました。

補足として、イベント等の現場で来場者の方とお話させていただくと、静岡の情報発信がまだまだ足りないといった御意見をいただくことがあります。そういったことを踏まえると、観光情報の発信、そしてさらには地域の様々な産業の紹介。そういったものを提供することで、実際の雇用や働く場についての意識を持っていただけたと思います。市や商工会議所に御協力いただき、12月に行ったPR展では、観光だけでなく移住定住コーナーを設けたところ、30分以上も熱心な御質問をされた方がいらっしゃいました。テレワークという仕事のやり方を大きく変えていく中、静岡県、特にこの東部地域、東京からも1時間周辺でアクセスできることを考えると、県東部地域を売り出す余地は、まだまだ多くあると考えています。

#### ○板垣東部地域局長

ありがとうございました。情報発信の大切なところについての貴重な御意見いただきました。ありがとうございました。今日、沼津高等専門学校の学生の方も参加していただいております。事前意見を頂戴してしますので、もしよければどうでしょうか。

○沼津工業高等専門学校 岩崎氏

沼津工業高等専門学校の岩崎です。よろしく申し上げます。

事前意見書に書かせていただきましたが、東部地域において一番魅力的に感じるのは、やはり交通の便がいいということだと思います。私は沼津工業高等専門学校に入学してから東部に来ましたが、元々住んでいた中部と比較しても、当然、中部にも静岡駅などの主要な駅はありますが、東部には新幹線の止まる駅も多く、関東にも関西にもいきやすいというところが、東部の良いところだと思っています。やはり、東京まで1時間の距離というのが一番の特徴だとも思いますので、そこを全面的に推していければもっといいところに繋がるのではないかと考えております。

○板垣東部地域局長

ありがとうございます。まだまだ御意見いただきたいところがございますが、時間の制限もございますので、ありがとうございます。いただいた意見につきましては、今後の県の政策の方に反映を目指してまいりたいと思っております。また、後ほど皆様から御意見いただきたく時間もありますので、その時に頂戴できればと思います。

次第に従いまして次に進めさせていただきたいと思っております。続いて、次第3議事(2)の「子育て・福祉・産業・教育分野から見た地方創生」をテーマに、5名の皆様に取り組内容を御紹介させていただきたいと考えております。その後、構成員の皆様と意見交換を行いたいと考えております。

それではまず初めに、富士富士宮市を中心に子育て環境の向上や情報発信に取り組まれておりますNPO法人母力向上委員会の代表理事でございます塩川祐子様から「らしく楽しくつないでいく～子育て支援から生み出す社会デザイン実践方法～」と題しまして取組紹介をさせていただきたいと考えています。塩川様、よろしく申し上げます。

○NPO法人母力向上委員会代表理事 塩川氏

皆様こんにちは。富士宮で子育て支援団体を運営しています。NPO法人母力向上委員会の代表理事の塩川です。よろしくお願いたします。

まず、私達の団体の紹介をさせていただきます。「らしく楽しくつないでいく」という言葉を大切にしながら、全ての人が生まれてきて良かったと思える社会をビジョンに描き、妊娠、出産、子育てと受容、お母さんたちを受け止めるということ、それからお母さんたちに選択肢を届けるということ、それから、社会時代のニーズに合った新しい物を生み出す創造というもの、これらを掛け合わせていくことをミッションとして2008年より活動を続けている団体です。現在取り組んでいる活動としましては、主に妊娠期から子育て期の女性を対象として、居場所事業や講座等で受容をするというところ、それから情報発信や創業支援、就職支援と女性活躍事業、それから行政や企業とコラボをしながら、まちづくりや仕組みづくりをしていく子育て環境デザイン事業というところに私たちは取り組んでいます。

産後の女性、妊娠期から産後の女性が活躍するまでの段階を、私達は養生期、それからリハビリ期、それから、復帰移行期という形に段階を分けています。多くの女性に産後、自己像を喪失するという時期があります。そこから自己像を再構築していくために、切れ目ない支援をすることで社会で活躍していくという段階がやってくるというふう

に私たちは捉えています。

次のページが実際の私たちの活動の様子です。こういった居場所で支援者、お母さん

同士をつなげていくというようなことをしています。

次のページの切れ目ない支援としての環境デザインということですが、まず、不安を

抱えながら育児を始めたお母さんたちが参加者として色々なものに出会いながら自己像を確立していく。そうすると、その人たちが自信を持って復職したり、起業したり、ともすると支援者側になってくるといことがあります。さらにステップを踏んで行くと、私たち委員として協力させていただいていますが、行政の審議委員等で当事者の声を反映させる立場になっていくと、資料にあるこのような形で私達は環境をデザインしています。写真にあるのは、実際に参加者から、支援者側に回っていった場合の様子です。

それから、色々な支援者さんが各地域に点在していますが、この支援者さんも質の高いものを提供されていますので、点だけでなく、線で結んで面で支えており、それも私たちは重要だと考えております。

そのため、支援者ネットワークの形成というものを、地域の中でも広域的に子育て支援の団体と一緒にタグを組んでおくと、いざというとき安心ということで、非常時にはお互い助け合う防災ネットワークというものにも取り組んでいます。今年度は台風15号の際に非常に活躍しました。

それから、当事者の声をもとにして、それこそ地方創生交付金をいただきながら始めた事業として、ベビーステーション事業というものがあります。富士宮市と共同で、コンビニチェーンと協働しながら、子育ての方たちが外出しやすいまちづくり、それから地域全体で子育てを行っていく仕組みづくりというものにも取り組んでおり、大臣の視察も行われました。それが発展してできたのが、出張授乳室おむつ替え室テントというもので、これは最近では、茨城県の県立美術館での常設が始まったところです。こういった経験をもとに、公共施設や企業様の子育てコーナーのコーディネート等にも取り組んでいます。

このような私たちが、現在課題として捉えているものは、やはりなんといってもコロナ禍で子育て支援というところが、継続はされていても実態としては縮小しているということです。これによって様々な影響がありまして、そもそも母親の孤立化が進んでいます。少子化についても一気に加速してしまったということで、対面とオンラインの両方のハイブリットな支援が絶対に必要だと考えています。それから、社会全体で子育て支援をしていく取組が不可欠なため、子育てアシストプログラムというものを開発して、現在高校生と取り組んでいるところです。

また、男性の育休取得が進む中、職場と家庭との狭間にある課題がまだまだありますので、そこに対する私達のアプローチとしても、マタニティ講座の開催や男性の家事育児参加促進の企業研修にも参加させていただいています。このような形で、男性が家事に参加していく様子や、これから子育てをしていく世代に子育ての現状を伝えていくことも大事だと思っています。

このように、点だけでなく全面的に面で支えていくということが、子育ての土台を安定させて、人が活躍する地域を作っていく、地方創生をしていくことが重要だと思っています。令和5年度の施策についても、そういった視点を持って皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございました。

#### ○板垣東部地域局長

塩川さんありがとうございました。妊娠期から子育て期の切れ目ない支援ということ、さらに支援をされた方が支援する側に回るとい循環についてもお話しいただけましたし、点と点から面へという中で、男性のことにもふれていただきました。ありがとうございました。

続きまして、御殿場市を中心に高齢者福祉施設や障害者支援施設、保育園等を運営されている社会福祉法人富岳会理事長の山内剛様から、「インクルーシブ保育の現場につ

いて」と題しまして、取組紹介をいただきたいと思います。山内様よろしくお願ひいたします。

○社会福祉法人富岳会理事長 山内氏

はい、皆様こんにちは。私、富岳会の理事長の山内と申します。本日はコロナ禍で取り組んでいる「インクルーシブ保育」という事業についてお話させていただきます。

まず、富岳会は御殿場市と裾野市に4つの保育園と2つの児童発達支援センター、これは障害のある子供たち就学前の子供たちの施設です。そして、3つの知的障害者の支援施設、そして4つの高齢者施設、2つの収益事業、これはフードマーケットと富岳太鼓というプロの太鼓団体ですが、全部で15の施設を運営しています。日中利用者は約1,200人で、夜間利用者は420人、職員は470人の施設となっています。

富岳会で色々な独自の取組をしていますが、今回は3年前から全国に先駆けて始めた「インクルーシブ保育」についてお話させていただきます。

今、子どもたちの中には、ASDと言われる自閉症スペクトラム、ADHDと言われる注意欠陥多動性障害、またLDと言われる学習障害の子どもたちが、少子化の中で率としては増えているのが現状です。その子どもたちを、今、障害保育という形で各保育園で受け入れています、対応している保育士さんたちが苦勞しているのが現状です。私達は富岳会の中で4つの保育園があり、御殿場にある富岳保育園と、もう一つ、児童発達支援センターの富岳学園という障害のある子どもたちを40名預かっている施設があります。この2つの施設を1つの施設としてインクルーシブ保育を実施するためにくっつけました。富岳保育園は静岡県の管轄で、富岳学園は御殿場市の管轄。この2つの施設を1つの施設にするというのは大変苦勞がいったのですが、これからインクルーシブというのが大変重要になってくるということで、御殿場市と静岡県が認めてくださいます、1つの建物の中で作ることができました。

「インクルーシブ保育」は皆様のお手元に配布していますが、見開きを開いていただきますと「インクルーシブ保育」について書いてあります。「インクルーシブ保育」は、子供の国籍、年齢、発達段階、障害の有無などの違いに関わらず、どのような背景を持った子どもも、包括的に受け入れる保育、これを「インクルーシブ保育」といいます。

本来は「インクルーシブ教育」というんですが、日本では「インクルーシブ教育」が難しいというのが現状です。それは昔からある特別支援学校制度により、どうしても障害のある子供たちは特別支援の方に行くという形になりますので、中々普通校で受け入れることができないのですが、「インクルーシブ保育」であれば流動的に動きやすいということで、我々は「インクルーシブ保育」を実施しています。

その下に書かれていますが、「富岳式インクルーシブ保育」では、同じ空間のもとで富岳保育園が長年行っている未来を見据え、個性を伸ばす保育カリキュラムと、富岳学園が行っているオリジナルの療育プログラムを展開します。保育園と児童発達支援センターの持つそれぞれの特徴を生かしながら、子どもの多様性に合わせ、保育の枠組みを柔軟に変えることのできる、「オールタイム保育」、「サムタイム保育」、「ちゃむあっぷタイム」などの特別な保育を行うことができるのが、富岳式の特徴です。全ての子供が育ち、小さい頃から一人一人違う子供たちが一緒に生活する中で、思いやりややさしさ、相手を尊重する心を育てていきます。

まず、「ちゃむあっぷタイム」と書いてありますが、ちゃむあっぷとは仲良しという意味で、二園の壁を取り外し、様々な遊びを子どもたちが自ら展開し、子ども同士の関わりの中でたくさんの喜びや学びのある時間にしていきます。保育園の子どもたちや児童発達支援センターの子どもたちと、色々な障害の子どもたちが一緒に、色々な行事を楽しんでいく。時には食堂で一緒に食事を楽しむ、園が四角くなって真ん中が中庭にな



っているんですが、そこで障害のある子どもたちが正規発達の子どもたちと一緒に楽しくあそんでいる。そういう分け隔て無い生活をしています。

そして次に、「サムタイム保育」というのがありますが、これは時々という意味です。障害のある子どもたちは、養育の効果が上がっていくと、保育園のクラスに入っていきます。それで、最初は給食や自由遊びのような得意なものから入っていき、だんだん時間を延ばしていく。

そして最後には、「オールタイム保育」として、地域の保育所や幼稚園への移行や就学に向け、1日を通して、富岳保育園の子どもたちと富岳学園の子どもたちが生活をし、大集団での生活を経験していきます。逆に、発達の気になるお子様が保育園にいた場合や、どうしても大集団の中では生活できない子は富岳学園の中で生活をして、しっかりと座って生活できるような、そういうトレーニングをしていく。両方を行き来して、生活をしていくというのが富岳会の特徴です。

どんな効果が期待できるのかというと、まず、子供たちは人にはそれぞれ違いがあることを知ることができます。3歳くらいまでは自分を中心に物事を展開させる自己中心的な行動が見られますが、年中児年長児になると周囲を見る目が育ち、協力、助け合い、譲り合いなどの人との関わり合い方を見つけます。そこで子供たちは自分と人との違いを知ることができます。男女の違い、年齢による対応の違い、国籍、障害のあるなしの違い、それらを幼い頃から受け入れることが人を差別しないことへの第一歩となります。

日本の教育制度は特別支援学校が隔離された場所にあることによって、障害のある子供たちと全く接することなく義務教育、高等教育を終え、社会に出る子どもたちがいることは、子どもたちにとっては大分不幸なことです。強いものだけで世の中が構成されていけば、人は権力を争い、戦争が始まります。逆に弱いものだけの集まりでは、チャレンジ精神や開拓の精神、競争心が育ちません。また、同レベルのものだけが集まると、その集団のレベルが低ければ低いほど足の引っ張り合いが始まり、人の弱みを探り合い、それをいじめの種にしたりする行為が生まれてきます。

幼い頃から障害のある子や外国の子供たち、異年齢の子どもたちと生活することで、偏見や差別がなくなり、いじめのない社会へ繋がります。また、逆に発達に遅れのある、障害のある子供たちは、同じ年齢の子供との違いから、様々な刺激を受け、成長に繋げることができるというメリットがあり、お互いに相乗効果が生まれているのが現実です。

保育園や保育士側は、多様な子供たちと接する中で高い保育スキルを身につけたり、障害児保育の知識を広げられます。そして、子供たちの成長から多くの学びを得ることができます。そして、法人としての保育園と児童発達支援センターを統合することにより、さらに地域に貢献し、地域福祉の発展に寄与できるなど、多くのメリットが現在現れてきています。共生社会、そしてソーシャルインクルージョンの実現、これこそが私たち富岳会が目指している、あかちゃんからお年寄り、障害者に至るまでみんなが笑顔で幸せに暮らせる地域社会の構築だと考えています。以上で発表を終わらせていただきます。

#### ○板垣東部地域局長

山内様、ありがとうございます。小さな頃からお互いの違いが個性という形で理解されることで、多様性を受容できる気がいたしますし、それが共生社会につながるということで御提案をいただきました。ありがとうございます。

続きまして、東京でコンサルタント業を従事した後に、現職につきまして、漁協の経営改善や漁業が抱えている課題の解決に取り組まれております富士養鱒漁業協同組合の代表理事組合長でございます平林馨様から、「静岡県東部の鮭鱒養殖業の現状と展望、政策評価について」と題しまして、取組紹介の方をいただきたいと思います。平林様、

よろしく申し上げます。

○富士養鱒漁業協同組合代表理事組合長 平林氏

皆様、本日は貴重な機会をいただきましてありがとうございます。富士養鱒漁業協同組合の平林と申します。私、平成2年生まれの33歳ということで若いんですが、経営学修士をとっています。富士宮で生まれましたが、幼稚園から大学までずっと神奈川県におり、静岡には2019年からいます。

私自身も養殖場を持っていて、それを事業承継するとともに、富士養鱒漁協の立て直しをやってくれという話を言われました。実際、資料のとおり何年も赤字の状態からのスタートでした。地域産業をここから事業再生するのはなかなか大変ですが、財務内容の強化や漁協内のケイパビリティ、難しいこと言っていますが、要は職員にもっとやる気を出させ、やる気を出した分、給与に反映されたり、もっと社会的意義のある地位に行けるという話です。分かりやすく最初のところから再構築するというのをやった結果、なんとか、私が常務理事に就任してのここ3年は黒字で経過しているという劇的な改善を続けているというところなんです。その結果をもって、組合の皆さんに、再度組合長に選任いただいたという状況です。

こちらの資料が私が持っている養殖場の風景です。こんな富士宮の街の中に、富士山の湧水が大量に出るため、大体戦後から、どんどん開発されていきました。一時期は、静岡県は日本一の生産量を誇り、全国生産量も1万何千トンもありましたが、このニジマス育てる養鱒業は、今では全国でも3,800トン程度、静岡県は1位ですが、昔は何千トンとあったところが今はもう800トン程度しかないことから分かるように、だいぶ斜陽産業化しています。

ただ、一方で全体的に生産量が減っていったものの、価格自体は上昇しています。これは、サーモンが1990年代から徐々に、主にノルウェーからのサーモンを生で食べるという需要が確立されてきたことで、単価が上がっていき、寿司などで載せられるような商材になっていきました。塩焼きだけではない需要が生まれていったということもあり価格の上昇が起きています。

養鱒業というのは、東部地域が今でも日本一です。東部地域にほぼ全部の養鱒場が集中しています。養鱒業は組合員で言うと、富士宮に11組合員、伊豆地域で5組合員、小山町に1組合員います。

私が約3年間水産養殖業に従事している中で、水産養殖業が抱える地域社会課題の課題と解決の方向性が見えてきまして、このまちひとしごととの関係で言うと、富士養鱒漁協もそうですが、養殖経営を改善させる人材が全然いませんでした。なおかつ、現場でニジマスもっと作ってやれる、魚をもっと作ってやれるという即戦力となる現場人材もいませんでした。

水産高校や漁業高等学園等がありますが、現場で即全てができるという人材ではなく、就職してからそこで3年から5年勉強、OJTをさせてやらないといけないため、ミスマッチが発生することがあります。実際思っていたのと少し違った、本当は水族館行きたかったが養殖場に就職したら全然うまくいかないといったことがあり、人材があまり見つからないというところがすごくあります。そのため、もし解決していくのであれば、私みたいな養殖も経営も分かる人材。つまりはバイリンガルのような、どの業界も調べたら分かるという高度な人材。そういった人材が必要だと感じます。

さらには、教育機関。これはどの業界も同じだと思いますが、高校、大学のときから、より実践的なカリキュラムを提供していく。それを業界が助け、その取組に対して補助金を出すといったもの。そういったことをやっていかないと、結局、いつまで経っても良い人材を獲得するのは、OJTで3～5年かかってしまう。そうすると、中小企業の経

営体力はどんどん下がっていき、良い人材を確保するために多くの人を雇うというのは人材不足で厳しくなっているため、もっと早めに手を打っていった方がいいのではないかと感じています。

しかし、これほど厳しい状態ですが、実は世界的には養殖業はこれから伸びる産業だと言われており、それに対する資金も集まっています。実際、国も長期的な戦略で、農林水産省が養殖業成長産業化総合戦略というものを出しました。

現在、鮭鱒、いわゆるサーモンの国内消費量は大体30万トン程度とされています。国内の鮭鱒消費量は、この先も増加していきます。一方で、アジアの諸国の需要も増加しており、アジアの人たちの方が日本より高く買ってくれるため、日本市場がどんどん負け込んでいく。今も皆さんがスーパーの鮮魚売り場が寂しくなっているとお気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、それは買い負けしてるからです。そのため、この状況はさらに悪化します。イコール食料争奪が始まっているという認識を持っていただければと思います。

その中で、国内鮭鱒養殖は、国内サーモン需要を担う大きな役割に転換できると、その兆しは見えていると、マーケットはあるため取りに行こうという話なんです。マーケットを取りに来たのはなんと外資系でした。年間5,300トン生産するそうです。私たちは今、先ほど資料をお見せしましたが、静岡県内の鮭鱒養殖で800トンです。その年間の5倍6倍くらいのものですごい量を生産するといいます。これは、彼らがこれまで進めてきた技術、研究開発の結果です。日本はそういった一次産業に対して、そこまで大きくフィーチャーしてこなかったというところがあり、現在このような状況になっています。

私が言いたいのは、いきなり何かお金をくださいですか、そういった話ではありません。ただ、まず、私が「まち・ひと・しごと戦略」の政策評価指標を見る中で思うのは、今後も成長性がある養殖産業に対して全然静岡県がフィーチャーできていない。もう少し見るべき観点を、例えば養殖に関して言えば、KPIを独自に持って、新規就業者生産額の発展性を逆に内外にPRする。そうすることで、その中核となる、世界でも戦える鮭鱒産業を静岡県が作っていますと言えるのではないのでしょうか。それで、これだけの生産額を稼いでいるということが言えると思います。

今まで海があって、静岡県は立派な魚の宝庫のため、どうしても漁業の方に目が行きがちでしたが、実は内水の養殖業もまだまだ戦える、なおかつ東部地域には、この富士山の湧水という日本でも他に類を見ない豊富な湧水を有している、これを使えば確実に世界をリードできる産業をもう一度作れるのではないかと私自身は考えています。そのため、養殖というものをもう少し認めていただいて、養殖の発展性を行政や県民の方々に理解していただきたいと思います。

最後に、まとめということで、斜陽化していた国内鮭鱒養殖も再成長の兆しがあります。一方で、外資の養殖企業という大規模養殖業が迫り来ており、それに対して従来の小規模経営体では太刀打ちができない。そのため、そこを座して死を待つのではなく、富士山の湧水というここにしかない地域資源を使って、養殖産業を使った地域活性を図っていくことで、グローバルに展開できる産業を起こせ、それがローカルの産業にも波及効果が広がっていくのではないかと思います。そういったところで行政支援や県内外から養殖に関する知見を結集して、静岡県オリジナルの具体的な動きや成果に繋がれば幸いです。以上で私の発表を終わります。ありがとうございました。

○板垣東部地域局長

平林様、ありがとうございました。一つ人材育成だけ取ってみても、必要な人材と供給人材のミスマッチみたいな話もありましたし、養殖業の成長性についても御提言いた

だきまして、本当にありがとうございました。

続きまして、森林調査や樹木医として活躍して、森の何でも屋として森林総合サービスを提供されております、株式会社森ラボ代表取締役の鈴木礼様から、「東部地域に適した主伐・再造林方法の模索」と題して取組紹介をいただければと思います。それでは鈴木様、よろしくお願いします。

#### ○株式会社森ラボ代表取締役 鈴木氏

ただいま御紹介いただきました株式会社森ラボの鈴木と申します。私のプロフィールですが、静岡県三島市生まれ、三島市育ち。会社にはなっていますが、妻と二人で運営しているため、私イコール森ラボという形で活動しています。6年ほど、浜松市天竜区の民間の事業体で修行を積んだ後に、2014年に三島に戻ってきて株式会社森ラボを立ち上げました。

当初は、林業会社という形で始めましたが、色々な資格を持つ関係で、木のことや樹木、森のことなど、色々な相談を受ける中で、森林調査や講習会の講師など様々なことをやらせていただき、森の何でも屋ということで、幅広い業務に携わっています。妻と二人でやっている会社ですが、二人でやりきれない部分もあるため、業界の仲間とチームを組んで、その都度対応するというスタイルで仕事をしています。

まず、今回のテーマの「主伐・再造林」。こちら、あまり聞きなれない言葉かと思いますが、そちらから御説明をしていききたいと思います。

資料の方に記載されていますが、まず木を植えるところから林業はスタートします。木を植えて、苗木の周りに生えてきた草を刈って、育てて、40年ほどたったところで間伐して、切った木は木材として出荷をして、残った木はさらに大きく太く育てていくという段階に入ります。そして、ようやく70年80年たったところで収穫を迎えます。その最後の収穫の部分を「主伐」といいます。丸で囲ってありますが、最後の収穫をして、さらにまた木を植えて育てるという循環を繰り返していきませんが、その最後のところを「主伐・再造林」と言っています。

評価書の中でも、この「主伐・再造林」という言葉が取り上げられていますが、その再造林面積の目標値が500ヘクタールと掲げられている一方で、現状の数値としては、213ヘクタールということで、かなり目標から離れてしまっています。その原因として、評価書の方にも書かれていますが、森林所有者の方が、主伐・再造林をやっても、育てるところにお金がかかってしまい、あまり儲からないことを懸念して足踏みをしている。また、主伐・再造林をして植え直したとしても、野生動物が増えてしまっていて、せっかく植えた苗が食べられてしまうといった不安から進んでいないとあります。それに対して、様々な支援策を県や国で考えていただいているところです。

しかし、この東部地域においても一つ大きな原因がありまして、担い手不足というところが大きいと考えています。その理由としては、この造林仕事というのは正直、儲からないです。儲からない割に林業の作業の中で一番きつい過酷な作業です。そういった面もあり、なかなかやりたがらない、やりたいっていう方が出てこないというところがあります。もう一つは、静岡県というのは、この収穫期を迎えるというのが、東部地域では特に初めてだからです。戦後に植えられた木が多いため、植えられた木が70年80年育ててようやく収穫期にきたところです。それまで20年ほど間伐をずっとしていました。そのため、間伐するために木を切って運び出すという機械に投資をしてきてしまっています。それが悪いということではありません。せっかくそこに投資してきたにもかかわらず、その機械を止めてまで儲からない仕事をあまりやりたくない。当然経営者としてはそのように判断すると思います。そのような理由から、再造林面積の増加にあまり繋がっていないと感じました。

一方で、急速にその造林を進めていかないといけないということで、技術の開発が進み、実用化が進んできています。例として、エリートツリーと呼ばれている従来よりも成長の早い苗木がだいぶ普及してきています。そういった苗木を、今まで人が一本一本、苗を買って、鋤で山に穴を掘って、苗木を植えていましたが、それを機械が行うというものが出てきています。また、苗木を植えるのではなく、ドローンから種子を飛ばして再造林できないかという研究も進んできています。

そのような形で、様々な研究が進んで実用化の段階に入ってきているため、私自身経営者としても、昨年初めて三島モデルと言うことで、三島に合った方法で実施できないかということで実証実験をスタートさせました。まだ取り組み始めたばかりのため、成果はまだだいぶ先になりますが、その一端を御紹介したいと思います。

先ほど御紹介した造林機械を試験導入していますが、今まで育てる段階では人力作業がとても多かったです。それを機械化しないと効率化が図れないし、安全も確保できないということで機械化を模索しています。その中で、下草刈りが一番きついため、そういったところを機械化できないかというところからスタートしました。その中でネックとなるのが、切った切り株や枝葉等が、機械の走行の邪魔になるというところで、それを除去することを始めました。それが今完了したところで、この春にエリートツリーを植林して、夏にはラジコン式の最新型草刈り機を利用して、下草刈りの事業を計画しております。

もう一つは、これまで森林情報といった非常に正確な情報がありませんでした。今まで林業でどうしていたかということ、森の中を歩き回って、ようやくどのような地形になっているのかなどが分かりました。それが、3次元点群データというものが出てきたことによって、それを解析することで、山に木が生えていても、地形がわかるという図面が出てきました。それによって歩き回らなくても、パソコン上でそれがわかるという時代になってきています。これは、林業ではまだ普及してないため、それを積極的に取り入れているところです。資料にカラフルな図が表示されていますが、山の傾斜が25度以下のところを青く表示するようにしています。このようなものが、今までは山を歩き回って調べていましたが、データの中で正確に25度以下までの地形の広さが、どこにあるのかということが分かるようになっていきます。

ではなぜ、この儲からないやりたがる人のいない「主伐・再造林」というものを手がけるようになったかということ、評価書では木材生産量を一番上に掲げており、それを達成するために主伐を進めていきましょうと書かれているように見受けられます。

しかし、それは順序が違うと、業界の人間からすると感じます。そうではなく、今まで間伐という選択肢しか、森林所有者の方に提示できなかったというところに課題があります。せっかく植えて育ててきたのに、収穫期になっても間伐という選択肢しか提示できなく、主伐して、若い林に戻しましょうという提案ができないのは、業界的に問題があると思います。

それを変えたいという思いから、三島に合ったモデルを考え始めました。この三島モデルがある程度確立できれば、東部地域どこでも概ね活用できると考えておりますので、それを今最重要課題として取り組んでいるところです。

それで結果的に、木材生産量が増えれば、この評価書の目標に対しても良い結果になっていくと思いますので、順序としては、50万立米という木材生産量を達成するためではなく、森林所有者さんたちのために、こういった技術を発展させて、確立させていかなければいけないということです。ありがとうございました。

○板垣東部地域局長

鈴木様、ありがとうございました。新たな技術の導入や機械化といった話を通じて、

森林に携わる方だからこそわかるような視点でお話いただきました。本当にありがとうございました。

それでは最後に、東部地域で唯一国際バカロレアに認定されております、加藤学園暁秀中学校・高等学校でディレクターとして活躍されております、加藤学園暁秀中学・高等学校バイリンガルコースディレクターのウェンドフェルト延子様から「ふじのくに地域作りと国際バカロレア」と題しまして、取組紹介をお願いいたします。ウェンドフェルト様、よろしくお願いいたします。

○加藤学園暁秀中学校・高等学校 バイリンガルコースディレクター ウェンドフェルト氏

加藤学園暁秀中高等学校バイリンガルコースディレクターのウェンドフェルトです。

加藤学園暁秀中高等学校では、国際バカロレアを英語イマージョンという形では1992年から、バカロレアは2000年から実施しています。そして、日本で初めてのバカロレア認定校となりました。

現在、各県で1校か2校はバカロレアの学校を増やしていくという動きがありますが、本校はその先駆けになって、20年以上前からバカロレアを実施している実績があります。そして、このバカロレアというものが、ふじのくにの戦略と、かなり親和性が高いと感じています。

国際理解教育という側面からすると、まさに国際バカロレアではそれを実践してきています。そもそも国際バカロレアとは何かというと、1960年代に国連近くにあるインターナショナルスクールで始まりました。国連には世界各国から職員が集うため、その子弟が行く学校として、どこの国に行っても通用する、グローバルな教育をする、良いところ取りの教育をするということが、国際バカロレアの最初の始まりとなっています。そして今、世界でも多くの学校で国際バカロレアが採用されています。その中で、国際バカロレアは、年齢に応じてプログラムが分かれており、幼稚園小学校を対象にしたプライマリーイヤーズプログラムという初等教育部門、中学生を中心としたミドルイヤーズプログラム、そして、高校2～3年生を対象にしたディプロマプログラムという3段階があります。本校としては、ミドルイヤーズプログラムとディプロマプログラムを実施しています。そして、今後は初等教育の部門でも始めると言うことで準備を進めています。

国際バカロレアの特徴としては、申し上げたように、全世界に通じる高度な教育をプログラムとして実施するということにあり、それを最終的に高校3年生の時点で結果を総合した成績として出し、その成績として出したものが、世界中の国の大学で認めてもらうことができるため、大学出願そして入学という形になっています。そういったアカデミックな意味での高度さに加えて、全人教育という側面も持っています。子どもたちを様々な面で人として育てていくという、大学に入るための教育と言うより、人として成長させていくという面もあります。

そういった意味で、評価書で、家庭や地域における人づくり活動という項目がありますが、バカロレアでは、学校での学びを社会に生かすということを行っています。中学生ではサーブスアズアクションという行動としての奉仕。そして高校生では、クリエイティビティアクティビティサービスという実際に学んだ事を社会の中で生かしていくということをする形になってます。具体的にどうしているかということ、環境問題に対する取組や、地域の子供たちに英語を教える、商店街の活性化として個々のお店と繋がりを持って、その店を舞台にした小説を書く、あるいはそのお店に関しての取材をしてYouTube等でお店を紹介するといったことをしています。もっと様々な形で生徒が気づいたところで、地域の人たちと繋がって活動しようとしています。今はコ

ロナで色々な制限があるため、十分にでききれてないところがあります。

そして、ふじのくにとしては超スマート社会、グローバル化の進展ということがありますが、国際バカロレアの中では、その最初の始まりのところからグローバルな動きをするという方針があったため、その理念はカリキュラムの中で実践されています。アカデミックと関係が薄いと感じるかもしれませんが、思いやりを持つ、コミュニケーション、探求知識、心を開く、振り返り、挑戦、しっかり考えるという理念や学習者像があり、それらが、一つ一つの授業の中で生かせるような仕組みができています。本校のバイリンガルコースに所属している子どもたちも、様々な文化、背景、国籍の子たちがおり、高校生の間に色々な国からの生徒を受け入れています。そして、またこれが世界基準の資格、あるいは成績という形でもらうことができるため、世界中の大学に進学しています。アメリカやカナダ、オーストラリア、そしてイギリス、こういった英語圏の国はもちろん英語で授業をやっており多数進学して行っています。その他には、例えばシンガポール、マレーシア、オランダ、フランス、チェコ、イタリア、イスラエル、南アフリカなど、通常では高校生がこれらの国の大学に直接進学すると考えにくいですが、世界中で英語の授業がある、カリキュラムがあるところには、国際バカロレアの資格を持って進学していくことが可能です。海外進学について、また留学支援についても、国際的なプログラムを実施しているため、障害なく海外に出ていく、言語的にも思考システム、思考スキルとしても、世界のどんな地域に行っても対応できるような子どもたちが育っており、これはグローバル人材と言えると思います。

また、社会におけるイノベーションということで、ふじのくにでは戦略として立てていますが、国際バカロレアの中に、TOK、知の理論という教科があります。これは人がものを考えるときに、どのようにして考えていくのか、私達が正しいと思っていることは本当に正しいのか、何を根拠にしてそのように考えるのか、といった形で掘り下げていく授業です。このような授業をやることで、現状の社会を分析的に検討していき、そこから新しい変革を起こすということができるようになっていくということをこの授業を通して学んでいます。そして、体験学習をするにあたって、実際に学んだこと、自分が社会に繋がっていくということが、どのように要求されていて、それを実際にそこから自分はどのようにしていくのかということ、具体的な意味で自分を振り返り、そして自分のキャリアを考えていくという形の進路をたどることができるようになっていきます。

また、教職員の質の向上ですが、国際バカロレアの認可を得た後は、5年ごとにその認可更新をする必要があります。その認可更新をするときには、それぞれのカリキュラムの実践方法がどうであるかということが審査され、また教員が、確実に研修を受けて、アップデートされた教育内容を実践しているか、ということが審査されます。それらを基にして、5年ごとの更新があり、不十分なところは指摘されて直していくということをして、国際バカロレア校として継続していくということが期待されています。

現場としては、国際基準、グローバル基準でやっていかなければならないところがあり、難しいところもありますが、生徒の大きな成長というのを見ることができ、そしてそれが全く新しいところに全く新しい展開をしていて、活躍してくれている子どもたちがいるため、非常に楽しいなと感じています。

#### ○板垣東部地域局長

ウェンドフェルト様、ありがとうございます。学校における取組を御紹介いただきながら、学んだことを社会に生かしていき、社会との繋がりも設けながらやっていらっしゃるようでございますし、若者の視点を早い内から世界に向けていくという非常に大切なことを改めて実感いたしました。ありがとうございます。

それではこれより、意見交換に入らせていただきたいと思います。今、御発表いただきました内容を受けた御意見でありますとか、あと普段皆様も活動されている中で、お考えになっているようなこと御意見ありましたら御発言いただきたいと思います。できれば多くの方に御発言いただきたいと思っておりますので、目安としてお一人3分程度ということでお願いできればと思っております。また、御発言の際は、挙手の上、所属とお名前をおっしゃっていただきますようお願いいたします。いかがでしょうか。

一番色々な情報が集まるといえば、静岡新聞・静岡放送東部総局の海野さんがいらっしやいますが、いかがでしょうか。

○静岡新聞・静岡放送東部総局長 海野氏

静岡新聞・静岡放送の海野です。今伺って一番興味を持ったのは、林業です。なぜかという、私、初任地が天竜で、天竜フォレスターができる前にそちらにいました。そのときから林業がとても将来性がある産業だと思っていました。

その時に、欧州から林業機械を集めて、全国森林サミットをやった覚えがあり、その時に林業はこれから伸びる産業だと感じました。それから、もう30数年たちますが、花粉症等から分かるとおり、スギ花粉が飛んでいるということで、残念ながら、人工林の森や山が死にかけています。

今伺ったお話からすると将来の林業はとても期待できると感じました。それをぜひ、県東部から全県に発信していただきたいと思いました。ありがとうございます。

○板垣東部地域局長

ありがとうございました。

産業という面では、今日は富士宮商工会議所の河原崎会頭もお越しいただいておりますが、いかがでしょうか。

○富士宮商工会議所会頭 河原崎氏

富士宮商工会議所の河原崎です。富士宮市では、昨年、市制80周年ということで、全ての行事が3年ぶりにリアルで行われ、富士宮発で発足した富士宮高校会議所とタッグを組みながら、産業フェアを体育館やグラウンドを使って2日間にわたって行いました。

また、富士宮では、市、金融機関、商工会議所、商工会、これらを中心にしてカーボンニュートラルのための締結やSDGs、それからビジネスコネクト富士宮というものが発足しました。このビジネスコネクト富士宮は、創業支援からいわゆる後継者への支援を実施し、また、補助金によりなんとか操業している企業の技術だけでも生かすために、基幹となる企業に技術を見てもらって、それを買っていただくということをしています。それから、商工会議所の中で、労務や日々生きていく中での問題、支援等を全部まとめてワンストップで受けるサービスも実施しており、これが非常に効果が上がっています。先ほど発表されました塩川さんとも、産業フェアの中で、マルシェと一緒に実施していただき、創業支援に対するきっかけも大きく広がっているなと思います。実際、近隣の市と比較すると、工業出荷額もどんどん増えていまして、もう1兆円を超すところまできております。私自身、会頭を3期担っており、今が一番富士宮が勢いづいてると感じています。

移住についても、芝川町を中心としながらかなり増えてきています。あとは地元高校生たちに地元どんな企業があるのかということ、さらに知ってもらうために、市と一緒に、高校生全員に富士宮市の産業ガイドブックを高校生全員に配布することも始めており、地元の産業をもう少し高校生たちによく見てもらいたいということで行っています。



○板垣東部地域局長

河原崎様、ありがとうございました。ワンストップのサービス話もいただきましてありがとうございました。

会場の皆さん何かございますか。どうぞ、岩松様お願いします。

○一般社団法人ママとね運営スタッフ 岩松氏

本日はこのような場を設けていただきありがとうございます。一般社団法人ママとねの岩松と申します。よろしく申し上げます。私自身が海外から静岡県への転入者ということで、今日の話聞いて、静岡県のすごく魅力のあるところをもっと知られればいいなと思って聞いておりました。

資料にもありますとおり、移住希望者が増えており、移住希望者のうち子育て世代が8割超えと言うことで、実際に私自身も私個人に対して、ここ半年間で3人ぐらい首都圏から東部、特に三島への移住に興味があるという話をしてもらっていて、個人的に宣伝などをしておりました。

その方たちが魅力として感じているのは子育て環境。やはり、自然豊かな中での子育て環境に関心を持たれています。また、職場がフルリモートなので、首都圏から出ても特に問題ないということで、子育て環境を重視して、静岡県東部を検討しているという方が多かったです。その中でも、その方たちが関心があるのは保育所の充実。あとは、働き方が多様化していますので、時間帯もさまざまに預けることができるサービスがあるかどうかということにも興味があるようです。

また、昨日、小池都知事が発表されていたように、第2子の2歳以下の子どもは保育料が無料になるというお話もありましたけれども、保育や子育てのしやすさというものも重視している結果ではないかなと思います。

保育所の充実と魅力的な就職先があるかどうか、復職しやすい環境であるかどうかというところを子育て世代は重視していますので、そういった環境が充実してくれば、嬉しいなと思います。

○板垣東部地域局長

岩松様、ありがとうございました。貴重な意見ありがとうございます。

会場の皆様から他にありますか。ウェンドフェルト様、どうぞ。

○加藤学園暁秀中学校・高等学校 バイリンガルコースディレクター ウェンドフェルト氏

高校生中学生として、社会に出て、色々と繋がっていきたいという希望があります。現状は、生徒たちが様々な形で見つけてきたもの、あるいは保護者が見つけてきたものというもので、活動していますが、社会福祉協議会に聞きに行く、あるいは広報誌を見るなど、それ以外のところで、色々な繋がりを持つことができるのではないかと思います。

しかし、どこにそのようなところがあるか分からないため、ぜひ教えていただきたいなと思っています。意外とそういうことを通して、実際に色々な働きをすることで、地域に愛着を持つとか、様々なところで学んできた後、また地元に戻ってくる動きにもなるのではないかと思います。

○板垣東部地域局長

ありがとうございました。どうぞ、川村さんお願いします。

○株式会社結屋代表取締役 川村氏

今のウエンドフェルト様がおっしゃった内容に関連してお話ししたいと思います。私、企業研修や高校生の修学旅行の受入れ、一次産業の現場支援をしている株式会社結屋の川村と申します。

今、ウエンドフェルト様がおっしゃったように社会に繋がって行く窓口の話がありましたが、そのお話しがすごく大切だと感じました。個別に人と繋がっている方が、個別にカスタマイズして対応するといったことが現場では行われており、私自身も修学旅行の受入れで、たまたま知り合いから紹介があって、修学旅行のプランをセッティングしてもらえないかという話がありました。そういった個人の人脈に依存して、個別にカスタマイズされており、仕組み化されていないという課題があります。

地域でそういった受入れ体制を整えたり、どのようなプログラムがあるかといった情報発信があまりありません。修学旅行の受入れをしていく中で、私自身感じましたが、これからの社会は、地域ならではの学びが地域の魅力に繋がっていき、それが人を育てることになり、社会が豊かになるということに繋がってくると思います。そのため、地域全体でその学びや教育を支えていく仕組みというものが作られていくというのは、とても大事なことではないかと思えます。

その中でもう一つ別の視点から言うと、高校の先生で地域の企業を学ぶキャリア教育をやりたいという方もいます。そういった場合も、結局、その先生の人脈で誰かに依頼したり、先生のマンパワーによって実施されており、そういった仕組みがない、どこに相談していいのか分からないといった課題に繋がっています。探求学習で、先生がプログラムを考えたいが、結局自分で繋がっている方に相談するしかない、そのため、どうすればいいかという相談をいただいたりもしました。

管轄が県になるか市町になるか分かりませんが、そのような地域にもっと繋がるような学習をしたいという先生方は多いと思います。そのような方たちに、その地域ならではの教育を届けるような仕組みや繋がりを作っていくことができるといいなと思えました。

もう一点、世界的に活躍されている五條堀孝先生という遺伝学者の先生が立ち上げた「富士箱根伊豆国際学会」という富士箱根伊豆地域ならではの学びを作っていくという学会のお手伝いをさせていただいています。11月にこの学会の大会を開いた際に、地域の高校生の部と社会人の部でポスターセッション、色々な研究や取組を発表する場を今回初めて取り入れたところ、大学生や社会人の方たちが、取組を発表したいということで多くの方に御参加をいただきました。地域でそういう研究や活動に取り組んでいるということが、まだまだ知られていませんし、光が当たる機会もあまりないとその時感じました。

地域にも世界的に活躍する先生方もいますし、学校単位や社会人活動をやっておられる、活動をどこかで発表したいという方も多くいらっしゃいます。そういった先生方と繋がりながら、近況や活動の発表の場を用意し、交流して学びが深められる場所を作っていくことで、地域の未来の研究者や人材の育成、人づくりに繋がると思えますので、そうした機会を地域として作っていただけるといいなと思えました。

○板垣東部地域局長

川村様、ありがとうございました。宿題をいただいた気分ですが、どうぞ、河原崎様、よろしく願います。

○富士宮商工会議所会頭 河原崎氏

今おっしゃられた中で、商工会議所であれば、例えば富士宮であれば、約2,200社が加入していますが、先ほどの学校の先生方の御希望にも全て協力できる体制があります。そのため、その場所の商工会議所を尋ねていただければ、どこでも受け入れてくれるはずです。例えば、富士宮には富岳館高校という学校がありますが、そこに工業系の学科を設置して欲しいということを県にお願いして、4年ほどで学科を一つ増設したりだとか、富士宮西高校が、周年行事として富士宮の産業を知るというキャリア教育についても、企業に全部予約を入れて対応するといったことを行っています。

それと、先ほども少し話しましたが、富士宮高校会議所というものがあまして、市内にある5校、それから専門学校1校。この中から数名ずつが集まって、ニジマスの残渣を使ったマス原肥という肥料の開発案を考えてやったり、去年行われました竜王戦のお菓子を、富士宮高校会議所が自分たちで竜王戦でこういうお菓子を食べてもらおうということで、お菓子の開発をやったりしています。

地域によって分かりませんが、ともかく富士宮では、高校が全部繋がって、すぐ対応できるため、そういうことをぜひその地域の中でやっていただければ、十分できると思いますので、ぜひ検討してみてください。

○板垣東部地域局長

ありがとうございました。

○株式会社結屋代表取締役 川村氏

ありがとうございます。すごいい取り組みだと思いました。私も三島の商工会議所青年部に入っているんで、そこでの活動として、仲間に話しながら取り組めるように頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

○板垣東部地域局長

どうぞ、植松様、よろしくお願いします。

○(一社)美しい伊豆創造センター専務理事 植松氏

一般社団法人美しい伊豆創造センターと申します。私どもの組織は、特に賀茂地域を入れた15市町で構成されています。主に地域振興と観光を主力に様々な事業を展開しています。併せて、ジオパークの世界認定を受けていまして、ジオパークの管理運営も行っております。

今、ウェンドフェルト様から高校生とのコラボといったお話がありましたが、バカロレアと少し似ているのは、ジオパークも世界基準のため、4年毎に審査があります。コロナ禍で1年間遅れましたが、10月にユネスコから審査員に来ていただいて、4日間、伊豆半島におけるジオ活動の視察が行われました。12月には再認定を受けたところですが、その中で、改善勧告という形の指摘がありました。

一つは、ジェンダーバランスです。意思決定機関における女性のバランスが良くないと御指摘いただきました。そしてもう一つは、観光における利活用において、サステイナブルなツアーが少ないということ。公共交通機関を活用したツアーが少ないということです。SDGsの目標にもなっているため、ジェンダーバランスやパートナーシップといった面で御指摘を受けたところです。

パートナーシップの部分でいうと、私どものジオパークの組織には、博士課程やPh.Dを持っている研究員が3名ほどおり、学術的な部分を含めてレポートを出しています。ジオというと地層や地殻と捉える方も多いですが、実はジオの大地の中に、わさびもあり、食もあり、キンメダイもあり、温泉もあります。これらのジオの恵みを受けて、伊

豆半島の成り立ちがあるわけです。また、ジオには文化という意味もありまして、特に中伊豆、天城の文学、井上靖や川端康成、三島由紀夫といった方々の文学的な価値です。また、歴史といった側面もあります。大河ドラマで北条義時が取り上げられましたが、武士政権が始まるのがここ伊豆半島。武士政権が終わるのも、下田のペリーの来航ということで、伊豆半島は武士の政権の始まりから終わりまでを見ていた土地という歴史的な資源を持っています。

ジオの様々な側面から切り取った部分を、中学生や高校生といった地元の方々と一緒に、様々なSDGsをテーマとしたサステイナブルな部分で協力していきたいです。また、バカロレアという面では、伊豆のジオサイトのことを勉強していただいて、SNS等で情報発信をしていただくといったことを、大いに期待したいと思っております。また、伊豆半島では教育旅行を誘致していきまして、教育要領が変わってから探究といった側面が推されています。それにあったプログラムを造成しているため、旅行会社が各エージェントに売り込みを図っていききたいと考えています。

#### ○板垣東部地域局長

植松様、ありがとうございました。どうぞ、大野様、よろしくお願いいたします。

#### ○静岡経済同友会東部協議会代表幹事 大野氏

静岡経済同友会の大野と申します。本日はありがとうございます。皆様のお手元にチラシを配らせていただきましたけれども、私どもの事業年度は4月から3月31日までが一連の事業年度になっております。本年度は、その地域に暮らすからには、幸せを感じなければいけないということで、幸福という言葉キーワードにさせていただきました。

その中で、幸福度世界ランキングNo. 1。5年連続なんですけれども、フィンランドが取得をされています。どうして幸福度世界ランキング5年連続ナンバーワンなのかということ、フィンランドに学ぼうということで、フィンランド大使館の御協力を得まして、この1年間フィンランドについて勉強させていただきました。

その中で、例えば子育て支援では、子供ができるフィンランド政府から家庭に子育て用のオムツや色々なグッズが届けられるといったニュースを聞かれた方もいらっしゃると思いますが、そういった支援をしています。また、国全体で、ご主人が育児休暇を取るということを企業がはっきりと認めていまして、何の問題もなく育児休暇を取ることができるということでございます。

もう一つ、その勉強の中で非常に気になったのが、各企業で、もちろん行政の方もですが、夏と冬、社員が大型連休を取ります。皆さん大型連休を取りますが、我々日本人側からすると、なぜそんなに大型連休をとって会社が回るんだという質問をしたところ、夏と冬は大学生が夏休み冬休みで大型休みとなるため、各企業とも、その大学生が休みのときに、短期アルバイトとして学生を、会社に入れるようです。社員がお休みをしている間、その短期アルバイトの人たちに権限を委譲して、学生がその仕事をやっていくというようなシステムで、企業内を回しているようです。もちろん社員が全員お休みするのではなく、3班に分けるとか2班に分けるとかをしていると思いますが、そうすることで、学生が社会を学生の間で体験して、社会人になることができるという好循環が生まれるといったお話を聞きました。

また、政治の面でも、世界一若い首相が誕生したということでニュースにもなりました。マリン首相が30代で首相になりましたが、政治の方も学生の頃からアルバイトあるいは、団体員として参加してるんだということです。社会に対しても、企業、政治に対しても、若い人たちが非常にものすごく熱心にやられてるということで、そういった背

景もあり、30代という首相が誕生したのではというようなお話も伺いました。

それで、去年の今頃に、フィンランドについて私達が何を知ってるかということ、ムーミンとかサウナとかその程度しか分らなかったんですが、色々勉強している中で本当に素晴らしい国だなという感想を持っています。今度2月8日に、駐日フィンランド大使タンヤ・カトリーナ・ヤースケライネンさんがお見えになり、御講演をいただきます。ぜひ御興味がありましたら、御参加いただきたいと思います。併せてお伝えすると、タンヤ大使は女性ですが、昨年9月に日本に就任されましたと同時に、ご主人も一緒にこられています。夫婦でどちらかの仕事を一生懸命見守る国と言いますか、そういった感想を受けています。

#### ○板垣東部地域局長

ありがとうございました。関心のある方は参加していただければと思いますのでよろしく願いいたします。

今、大学生の社会参加みたいな話もございました。今日、日本大学国際関係学部から竹内様にも来ていただいています。地域づくりにも関わっていただいているとのことですので、ぜひ竹内様の視点から御意見いただければと思います。

#### ○日本大学国際関係学部 竹内氏

日本大学国際関係学部4年の竹内です。私は、地域の中で学生と地域の人との交流を活性化させていきたいという思いから、長泉町にある下土狩駅前のコワーキングスペースで運営に携わっています。学生のやってみたくて実現するためのサポートする場として機能していますが、その運営をしていく中で学生たちにとっては、大学4年間、授業で学んだことを外に出て生かしていきたいという思いがあると感じました。

しかし一方で、地域での活動がどのように行われているかという情報がなかなか得られず、ボランティア活動をしたい学生も、結局活動できないということが多くあります。そのため、そのような活動の情報がネット上などの様々な媒体で発信されていくといいなと思いました。学生が色々やりたいという思いは多々あるように感じますが、それをサポートする仕組みがまだできていないことが課題かと思っています。

これから、私と日大生の1年生何人かと一緒に行っていく活動としては、長泉町にあるお店や店長さんにインタビューを行って、そこから得た思いなどの発信、また、そこで見つけた課題といったものを今後の連携に繋げていく、そのような活動をしていきたいと思っています。その中で、色々な高校生や大学生と一緒に巻き込んで活動して行けたらと思いますので、何かやりたい人を募集することができればいいと思っています。

#### ○板垣東部地域局長

竹内様、ありがとうございました。地域活動にいつも取り組んでいただいているということで、地域を一緒に元気にしていただければなと思います。ありがとうございました。

その他に御意見ある方いらっしゃいましたら挙手をお願いします。どうぞ、塩川様、お願いします。

#### ○NPO法人母力向上委員会代表理事 塩川氏

改めてお伝えしたいことがありまして、一つ一つの施策とか各市町において、一つ一つ丁寧に取り組んでいただいているというのはすごく大切なことなのですが、その施策と施策の繋ぎ目をすごく大事にいただければと思っています。

といいますのは、やはり母子保健や児童福祉の制度等がある中で、その対象から外れ

た際に就労するにあたって、どうしてもその就労と保育との間に溝があったり、企業側の受け皿というところも課題があったりします。その施策の繋ぎ目がどうなっているのが、子育て世代に不具合がないかということも、しっかりチェックしていただくによりスムーズな繋がっていく施策になっていくんじゃないかなと思います。ぜひ、そのところを各部署でチェックしていただきたいなと思っております。

○板垣東部地域局長

非常に貴重な御意見いただきましてありがとうございます。

Webで参加していただいております皆さんにも御意見いただきたいと思いますが、伊豆社会福祉事業会の木下様、参加いただいておりますが、いかがでしょうか。

○社会福祉法人伊豆社会福祉事業会施設長心得 木下氏

どうも、こんにちは。伊豆社会福祉事業会の木下と申します。皆様から本当に貴重な御意見を出していただきまして、それぞれの分野で御活躍されるのが非常によくわかりました。ただ、今回のこの会議の趣旨というのが、ちょっと分かりにくかったのですが、それぞれこういう事業に取り組んでるということを発表する場なのか、この地域をどうにかするということなのでしょう。それぞれの分野からの意見を聴取して、それぞれ連携をしていきたいとかそういうことを求められるのでしょうか。

○板垣東部地域局長

一つには評価書に対して御意見いただくのが大事ですし、施策に対する御意見をいただくことも大事ですが、せっかくの機会で多くの方が集まっておりますので、お互いの取組を知る中で、何か日頃の活動のヒントになっていただいたりすれば、それもすごく大きなことだと思っております。

○社会福祉法人伊豆社会福祉事業会施設長心得 木下氏

産業促進であるとか、その人口流出の歯止めであるとか、色々教育の促進であるとか、そういったことを地域全体で考えて、より住みやすい地域を作っていくというような形でいいでしょうか。魅力的なまちづくりということはそういうことですかね。

一つ思ったのは、人口流出の歯止めがかからなかったりと、学術産業の促進をしたりする中で、やはりPR力。せっかく良い事業に取り組まれていても、PR力が足りないとなかなか世の中の人たちには伝わりません。この東部地域は、海山川と自然環境にも恵まれていて、先ほどジオパークのお話もありましたが、歴史的にも文化的にも、富士山は世界遺産と言ってますが世界文化遺産なんですよ、非常に皆さんに興味を持っていただけるファクターがいっぱいあると思います。そういった良い部分をもっと積極的にPRする、自分たちは知っているけれども、世の中の方たちに価値を認めていただけるように、何か革新的なPR方法はないかと思っております。

PR方法の一つには、今まで皆さん取り組んでいる事業に対してブランド力を確立させる。例えば、この三島の地域ですと、農作物、三島野菜というものが、ブランドとして成立しています。これは神奈川県や東京の一流レストランで、三島野菜として高額の取引が行われるほど引張りだことになっています。これは、三島野菜というブランドが確立しているからであって、皆さんが取り組んでいらっしゃる先ほどのサーモンやバカロレアの話もそうですが、ブランドとして成り立ち、どの地域の方が聞いてもあれだって思えるような、そのブランドの構築が必要なのかなと思います。

そして、そのブランドを全面的に地域でうまくPRしていく。そうして世間の方に、この地域の優位性、それから特異性を知っていただくような取組を考えていったらいいの

ではないかなと思います。

○板垣東部地域局長

木下様、ありがとうございました。情報発信のところが大事だと改めて思いました。

そろそろ予定の時刻が迫ってまいりましたが、特に今日御発言されていない方でこれだけ言っておきたいということがありましたら、ぜひ、挙手をお願いできればと思います。よろしいでしょうか。

限られた時間で会議を進めてまいりまして、本当は御意見を発表したいですとか意見したいという方もいらっしゃると思いますが、時間が参りましたので、ここで意見交換を締めたいと思います。ありがとうございました。

また、今日まだ言い足りない部分や、さらに御意見がございましたら、お配りしました資料の中に御意見頂戴するためのFAX送信票も入れてございますので、お話し足りなかったことや、後でお気づきになった点などございましたら、事務局の方になんなりとお送りいただければと思います。

皆様からいただいた貴重な御意見を踏まえまして、地方創生の施策を図るとともに、県の総合戦略、また今後の具体的な事業への反映を目指してまいりたいと思います。本日は有益な御発言をたくさんいただき、誠にありがとうございました。また、長時間にわたりまして熱心な御討議、また円滑な議事進行に御協力いただきまして、改めて感謝申し上げます。以上で予定した議事を終了させていただきます。本当に今日は様々な御意見いただきましてありがとうございました。お互いの活動を知るきっかけにもなったのかなと思っておりますので、これを機会に新たなネットワークが生まれていくといいなと思っておりますけれども、ぜひよろしく願いいたします。

それでは進行を事務局の方にお返しいたします。

○長谷川地域課長

重ねてなりますが、長時間にわたりまして、また御意見をいただきましてありがとうございました。以上をもちまして、「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議東部地域会議」を終了いたします。重ねまして、本当に今日はありがとうございました。